

田中復興大臣記者会見録

(令和2年3月9日(月) 13:16~13:22 於) 経済同友会大会議室)

1. 質疑応答

(問) 大臣、あるいは櫻田さんのほうから、原子力発電所の汚染水の話って何か出られましたか。

汚染水があと2年ぐらいで満杯になるというふうになっていますけれども、大臣の所感、どういうふうにしたらいいかというお考えがあれば御披露ください。

(田中復興大臣) 汚染水の話は、今回、限られた時間だったものですからございませんでしたけれど、非常に重要なことでございます。

ただ、一方において、私が復興大臣として申し上げておりますのは、ALPS小委員会の専門家の皆様方の御意見はある程度まとまって、もう既に報道されておりますけれど、もう一方においては、やはり風評被害を考えていかないといけません。そのためには、地元の水産業者の方々、あるいは農業者の方々等々、地元の意見というものを丁寧にお聞きしながら対応しなければならないということを私は繰り返し申し上げておるところでございます。

(櫻田経済同友会代表幹事) 事実としては、22年度にタンクがいっぱいになるということですから、技術的には、いい悪いは別として、今、2つの提案がなされていて、蒸発させるのか、海に流すのかと。

いずれにしても、どちらも100点満点の答えではないし、今大臣がおっしゃられたように、地元の人にとしてみると、風評という問題は決して避けて通れないものである。

ただ、片方に、現実にいっぱいになるという話があり、片方に風評の問題があると。それを解決する技術というのも、この1年の間に画期的なものが出てくるかどうかわからないという中で、とにかくこの問題を、地域の問題ではなく国の問題として扱って、痛みをしっかりと分かち合える仕組みをつくるための議論を早く開始することが大事だと思いますし、大臣はそのため苦心されておられると私は考えております。

(問) 先ほど大臣のほうから、被災地への企業の立地をさらに促進してほしいというような話がありました。産業復興道半ばということですが、どのような形で被災地の支援を今後進められていくお考えでしょうか。

(櫻田経済同友会代表幹事) イノベーション・コースト構想という、まず大事なことは、国や県が心意気というか、志をしっかりと示してもらおうということ。

それには、法律や財政という、言ってみれば背中を押してくれる

ものがあるということだけではやっぱりだめで、そういったものプラス、その地域をどういような強みのある地域にしたいのかという、恐らくデジタルということ Avoiding 通れないと思いますけれども、そういった議論が必要だと思っております。

既に、もう幾つかの企業はそこに進出しているわけですが、日本の福島というだけではなく、世界に打って出る福島というのをつくるために、どういような技術がそこに集積したら世界に打って出られるのかというの、同友会の中では始めていかなければいけないなと思っております。

ただ、具体的に今、同友会の会員が所属する企業がいつまでに何をという議論まではまだ至っていませんが、まだこれからそういった議論を進めていく余地がありますし、毎年毎年、こういった取り組みを続けていくことがやっぱり大事だと思っております。

今年は、たまたまシンポジウムもコロナウイルスの関係で行わなかったんですけど、来期以降、またしっかりと毎年やっていきたいと思っております。

強みをどこに見出していくかということが、とても大事だと思っております。

(問) 話が変わって、大変恐縮なんですけれども、きょうの東京市場が2万円を割り込むような展開になりました。

今、この株価について、どのように御認識されていますでしょうか。

(櫻田経済同友会代表幹事) 僕は、この極端な円高とこの株の問題というのは、大いにリンクしていると思っております。

原因ははっきりしていますけれども、長続きすると思っておりますので、これは希望かもしれませんが、さらにオーバーシュートすることにはならないというふうに期待したいと思っております。

実体経済は、私はそこまで悪くないと思っております。

以上です。

どうも、大臣、ありがとうございました。

(田中復興大臣) どうもありがとうございました。

(以 上)